

病歷書ノ所属部隊及氏名等劃  
第1師團獨歩兵第14大隊第3中隊 赤崎清武トアルモ  
事實證明書ニ記載ノ

第1師團獨歩兵第14大隊第3中隊 赤崎清武トアルモ

取扱責任者 獨歩兵第14大隊副官 (木坂)

番地  
田地

昭和十五年徵集 陸軍曹長 赤崎清武

傷 名 左臀部盲管銃創(内臓損傷)

受傷年月日 昭和十九年四月二十日

受傷場所 中華民國河南省廣武縣霸王城

原因經過

昭和十九年四月二十日別紙現認證明書記載ノ如ク受傷ノ同日十八時三

十分北支那方面軍第一兵站病院花門患者療養所ニ收容セラル

病 歴 書

本籍地

現住所

第六十二師團獨立步兵第十四聯隊第三中隊

昭和十五年徵集 陸軍曹長 赤崎清武

傷 名 左臀部盲管銃創(内臓損傷)

受傷年月日 昭和十九年四月二十日

受傷場所 中華民國河南省廣武縣霸王城

原因經過

昭和十九年四月二十日別紙現認證明書記載、如左受傷、同日十八時三

十分北支那方面軍第一兵站病院門患着療養所ニ收容セラル

收容時顔貌苦悶状蒼白脈膊頻數微弱左側腹部ニ圧痛アリ  
腹部稍々膨滿左腎部中央稍々外側ニ大豆大ノ射入ロアリ  
嘔氣嘔吐數回アリ 意識殆ント不明ニシテ淺薄促進シアリ依ツテ直ニ  
輸血リンガル強心劑等ノ處置ヲ爲シ病名ヲ左腎部盲管銃創(内  
臟損傷)ニ決定開腹術ヲ行ハントスルモ一收状態危篤ニシテ行ヒ得ス  
己ヲ得ス前記處置ニ強心劑呼吸鎮靜劑等ヲ行ヒ経過觀察ト所  
同日二十時頃ヨリ漸次下顎呼吸ヲ始メ脈膊殆ント觸レサルニ至リ同日二十  
一時十分心音呼吸共ニ停止シ鬼籍ニ入レリ

死七年月日 昭和十九年四月二十日

死七場所 中華民國河南省第一兵站病院花門患者療養所

右ノ通ニ候也

昭和十九年四月二十日

死亡證書ノ名字劃ハ「赤崎清武」トスルモ  
事實證明書ニ記載「赤崎清武」カ正シキナリ

取扱責任者 獨逸兵站第一大隊副官  
陸軍曹長 赤崎清武

右昭和十九年四月二十日中華民國河南省廣武縣霸城ニ於テ  
戦闘中受傷シ左腎部盲管銃創(内臟損傷)(戦傷)ニ  
テ四月二十日以来北支那方面軍第一兵站病院花門患者療養  
所ニ於テ加療セシ處遂ニ該傷ニ由リ本日午後九時十分死ス

昭和十九年四月二十日

北支那方面軍第一兵站病院花門患者療養所長河野采雄



收容時顔貌苦悶状蒼白脈膊頻數微弱左側腹部ニ圧痛アリ  
腹部稍々膨滿左腎部中央稍々外側ニ大豆大ノ射入ロアリ  
嘔氣嘔吐數回アリ 意識殆ト不明ニシテ淺薄促進シアリ依ツテ直ニ  
輸血リンガル強心劑等ノ處置ヲ爲シ病名ヲ左腎部盲管銃創(内  
臟損傷)ニ決定開腹術ヲ行ハントスルモ一戰状態危篤ニシテ行ヒ得ス  
己ヲ得ス前記處置ニ強心劑呼吸鎮靜劑等ヲ行ヒ経過觀察ト所  
同日二十時頃ヨリ漸次下顎呼吸ヲ始メ脈膊殆ト觸レサルニ至リ同日二十  
一時十分心音呼吸共ニ停止シ鬼藉ニ入レリ

死七年月日 昭和十九年四月二十日

死七場所 中華民國河南省第一兵站病院花門患者療養所

右通ニ候也 昭和十九年四月二十日

### 死ニ證書

第三十二師團獨立步兵隊第三中隊

陸軍曹長 赤崎清武

右昭和十九年四月二十日中華民國河南省廣武縣霸城ニ於テ  
戰鬪中受傷シ左腎部盲管銃創(内臟損傷)(戦傷)ニ  
テ四月二十日以來北支那方面軍第一兵站病院花門患者療養  
所ニ於テ加療セシ處遂ニ該傷ニ由リ本日午後九時十分死ス

昭和十九年四月二十日

北支那方面軍第一兵站病院花門患者療養所長河野采雄



諸給與金證明書

本籍地  
現住所

[Redacted]

第六師團獨立歩兵第十四大隊第二中隊  
陸軍曹長 赤崎清武

右者對スル昭和十七年一月三十一日陸軍省告示第二號大東亞  
戰役ニ係ル死歿者特別賜金賜與規定第二條第二項ノ諸  
給與金ニ支給シテラサルコトヲ證明ス

昭和十九年五月一日

獨立歩兵第十四大隊長

田村權一

付	任	主	官	長	長	長	長

津 聯 隊 區 司 令 部	五	證明書	事實證明書
	四	病歷書	
	四	證明書	
	六	證書	死亡證明書
	二	證書	給與金證明書
		所屬部隊	所屬部隊
		隊區名	隊區名
	病死	死別	官
	片山佐平		氏名

石師副司令第一三號  
 恩賞關係書類送付、件通牒  
 昭和二十年三月四日 第六十二師團司令部  
 津聯隊區司令部 御中  
 左記者對之件別紙通送付又  
 左記